

2018年ジュニアテニス大会熱中症発生報告 (気温と熱中症発生との関連)

○平松 久仁彦^(MD) (ひらまつ くにひこ)^{1), 2)}, 佐道 准也^(OT) 1), 6), 橋本 祐介^(MD) 1), 4),
米谷 泰一^(MD) 1), 3), 奥平 修三^(MD) 1), 5), 太田 圭介^(AT) 1), 中田 研^(MD) 1), 6)

- 1) 関西テニス協会医科学委員
- 2) 玉井整形外科内科病院
- 3) 星ヶ丘医療センター 整形外科
- 4) 大阪市立大学 整形外科
- 5) 京都大学 整形外科
- 6) 大阪大学 健康スポーツ科学

【目的】

ジュニアテニス大会における熱中症の発生と大会期間中の気温との関連について調査すること。

【対象と方法】

2018年夏に大阪で開催された関西ジュニアテニス大会(7/12-7/22, ITC 韋テニスセンター), 及び全日本テニス大会(8/8-8/17, ITC 韋テニスセンター, 江坂テニスセンター)を対象とし(総参加選手数2546人, 総試合数1472試合), 大会期間中に発生した熱中症をⅠ度, Ⅱ度に分けて集計した。また, オムロン社製環境センサ(2JCIE-BL)を用いて大会期間中のコートサイドにおける気温, WBGTを1時間ごとに計測し, その最高値及び平均値と熱中症発生との関連についても検討した。

【結果】

熱中症は合計45件(Ⅰ度28件, Ⅱ度17件)発生した。全熱中症発生と平均WBGTとの間に最も強い関連性を認め, その閾値は30.6度であった。また, Ⅱ度以上の熱中症発生は最高気温との間に最も強い関連性を認め, その閾値は42.7度であった。

【考察】

夏のテニス大会においては外気温が35度を超えた場合ヒートルールが採用されているが, ヒートルールが採用されている本大会においても熱中症の発生が多く認められ, 予防につながっているのかどうか不明である。近年の温暖化により, 熱中症の発生は今後もさらに増加することが危惧されるので, その発生予防については新しいルール作りも含めてさらなる検討が必要になるのではないかと考える。

【結語】

2018年夏のジュニアテニス大会において, 熱中症は45件認めた。